

橋梁に関するイメージの分析例

金沢大学 正会員 ○城戸隆良

金沢大学 正会員 近田康夫

金沢大学 正会員 小堀為雄

1. まえがき カラーイメージの評価用語を収集する目的で、多くの人にカラー写真などを見せて思いつく言葉を報告してもらう自由連想法などによる収集方法があるが、本研究での方法は、単に漠然と「橋梁のイメージ」と題して橋梁に対していただくイメージについて、約180名の青年（工学系大学生20才男子、女子若干）に対して200から400字程度に思い当たる事柄を自由に記述してもらう方法で行った。その種々の記述内容から共通する要因ごとに類別化し、橋梁に対していただいているイメージの全体像の把握と要因の分析を試みた。このような方法により橋梁に関するデザイン上、あるいは、橋梁景観についてどのような要因が大切であるかを得た一例を示す。

2. 橋梁のイメージの図式化 人々の視野、視覚、感覚に写った橋梁景観は、個々の人々によってそれぞれの感覚量として評価されていると考えられる。このような、視覚的、知覚的感覚量としての種々の人々のフィルターを通した主観的、心理的な景観性（以下、心理的景観）を深く分析することは難しい。

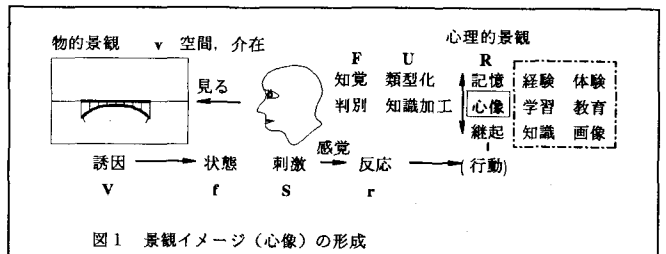
心理的景観は人々の視野、注視、視覚、感覚、知覚、経験、知識、心や身体や動作の状態などにより感じとれる景観と解され、そのときどきの状態によって景観性の種々の受け取りかた（応答）に違いがあろう。また、サイン性、シンボル性、ランドマーク性、イメージ性や橋名が持つイメージなど、橋梁の果たす役割は大きい。慣れ親しみ、日常眺め、また利用する人々にとってはメンタルマップ（心的地図）が形成されているであろう。

これに対して、そこに存在する橋梁は事物である。人々は視覚的・力学的・形態的・造形的・物的・美的な事物（構築物）として、それらを景観構成要素、あるいは、その集合体として、あるいは、周辺空間内にあるまとまった景観形態としてとらえる。この対象事物の存在、あるいは構成そのものを物的景観とする。

景観性については、物的景観の構成要素と配置、色彩が誘因となって、適度に人への視野に刺激となつてうつり、または眺めて視覚的に認識することにより、心理的景観として良い悪いを判別していると思われる。

本研究では、主観に近い前述の心理的景観に少し立ち入ってみる。心理的景観の構成を何らかの分析によってほぼつかむことができれば、良好な環境とするにはどういう要素について物的景観をとらえればよいのかの手掛かりをつかむことにつながると考え、青年達の「橋梁のイメージ」の記述内容を分析することによりこれらの再確認を試みた。

図1のように心理的景観、心像（イメージ）にいたる簡単な図化を考え展開してみる。人が対象物に対していただいているイメージ、連想、メンタルマップ、行動へつながる継起などの記憶加工された高次の心理的景観などへの心像をR、眼にうつり感じとった視覚的な像から過去の記憶との間での類別化判別を行い新たな記憶加工を行う過程をU、人が現実的に見て感じとる視覚的、心理的、直感的な景観への応答・反応をr、その人が見た物に対していろんな思考や判断がはたらくフィルターをF、その人が外界から視覚的、知覚的に受けとる刺激をS、その人の視覚的ないろんな状態、条件が介在するフィルターをf、空間的に介在する天気、照明、視覚的障害物などの要因によるフィルターをV、見ようとしているあるいは目にうつる対象物が放っている物的景観で視覚的に常に訴えている誘因をVと考える。景観の設計や



演出はこの図式の関係をとらえ、利用者の立場に立つて物的景觀にあたる V 、 v の空間を形成し、良好な環境を演出することが望まれる。この図式においてとらえにくい経験、知識、思い出などいろいろと橋について思っている、いだいている、感じている心像 R の構造を探るために以下のような簡単な分析を試みた。

3. 共通要因の類別化 各自の記述した文章の読解を進めて、共通するようなキーワードを随時作成しながら各キーワードに対応する文章の要約文を類別化、序列化し箇条書き風に追加していく方法で進めた。その結果を一覧すると様々な角度からの記述が得られ、種々な観点、視点から橋梁をとらえていることがわかった。適切とはいいがたいが、類別化に伴って作成した主なキーワードを表1に示す。

多くの記述内容の主な概要を述べると、橋にまつわる思い出、旅での経験、身近に見慣れた橋梁とその地域との関係などをとらえている。また、形や色だけではなく美しいと感じずるシーンや情景、そして、揺れや音響も思いのうちにあり、揺れをこわいと表現している者もいる。また、日頃の疑問や要望なども見受けられた。

このような経験則的な R への分析を進め、それから、物的景觀を逆に類推することにより、多くの有用なテーマを得ることが可能であろう。

上記のアンケートの分析を進めて類推するならば、物的景觀を単に視覚的な観点での誘因空間としてとらえるだけではなく、人間の他の感覚に関する音や揺れや肌理感触なども関係してくるものと推察される。たとえば、美的に優れた橋梁が架かっていてもその架かる場所の雰囲気として振動や雑音があるなどでは、その場としての環境のイメージ、評価が下がると考えられる。よって、視覚的な景觀性の重要性のみでなく、人間の聴覚、

振動感覚、あるいは触覚などに関する配慮、周囲との雰囲気の形成とともに、基本的な橋梁の機能の他に求められる付加価値を考慮した環境空間としての見方が、物的景觀を構成する要因、要素として大切であろう。表1下記の一例に見られる記述の「雪が降っても凍らない橋」は、現実的に切実なテーマを提供している。

4. あとがき 多くの「橋梁のイメージ」に関する記述結果に対して、主要な要因ごとに類型化して分析を行うことにより、橋梁についていだいている、思っている事柄の多くを得ることができた。このような方法の試みにより、一般の設問・選択枝型あるいはSD法のアンケートとは違ういろいろな角度からの見方や意見をすることができた。今回は、橋梁の対象を限ってのイメージ記述ではなく、漠然としているために、今までの記憶や体験そして知識などからの全体的な思い、とらえ方の傾向を推測するのに利用できると考えられる。また、本研究で感じたことは、建築物や土木構造物の保存や復元の判定に際して、このことを考慮すれば、多数のイメージ記述が得られるので、より適切な評価が得られるのではないかとと思われる。

最後に、「橋梁のイメージ」記述にご協力をいただいた多くの方々に謝意を表します。

表1 類別化のため作成した主なキーワード

機能 道路 両岸 役割 交流 流通 多目的性 波及効果 必要性 生活 利便 利用 観光性 価値 橋名 由来 歴史 文明
イメージ 象徴・シンボル ランドマーク 愛着 景觀
耐荷 安全 信頼 力学的 確信 不安
形 構造 存在 風格 時間経過 スケール 誇り
シーン 空間 場 景色 風景 状況 風情 光景 イベント シルエット 照明 夜景
色彩 配色 素材 テクスチャ ストリートファニチャ 街灯 高欄 彫刻 ベンチ バルコニー
音響 親和感 心理的作用 郷愁 経験 継起 振動 シークエンス景觀 思い出 記憶 想像 連想 継起
設計意図 機能面 景觀面 観光面 色彩面 安全面 経済面 実用面 デザイン 要望 疑問
橋梁名

(記述結果の類別の一例) 設計意図・機能面:

魅力に満ちた橋
雪が降っても凍らない橋
風景の美しさを引き立てる橋